

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	「子供広場ヤッチャル」におけるインドネシア児童の日本語学習法
Author(s)	プルウィヤンティ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 28期 : 102 - 111
Issue Date	2013-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038708
Right	
Relation	



「子供広場ヤッチャル」におけるインドネシア児童の 日本語学習法

プルウィヤンティ

はじめに

日本に居住している日本人、外国人の児童は、義務教育を受けることになっており、児童達は国公立学校や私立学校などを選ぶことができる。そして、国公立学校では授業は日本語で行われる。東広島に住んでいる外国人、特にインドネシアの児童の大半は、寺西小学校と三ツ城小学校で勉強をしている。日本人の児童達には日本語で授業を行うことに問題はないが、外国人の児童達の場合は日本語がわからず理解ができない。そのため外国の児童達は授業を理解するために日本語を勉強しなければならない。学校では日本語が理解できない児童達に特別な日本語クラスを設けている。

インドネシアと異なり、日本の文字は複雑である。漢字は文書の重要な語彙を表す役割を果たしている。片仮名は科学技術用語、外国からの借語発音などを書くのに使われている。平仮名は動詞、形容詞などを書くのに使われている。漢字と平仮名は文書に頻出する。児童や日本語を習ったばかりの人が読むための簡単な文書なら、普通は平仮名で書かれる。このため、平仮名の重要性を認識することができる。しかし、外国の児童にとって平仮名を学ぶのは容易ではない。

日本語を勉強する時は誰でも平仮名から勉強することになる。インドネシアの字はローマ字である。しかし日本の字は平仮名はである。児童にとって字を学び、覚える事は簡単ではないだろう。

インドネシア児童達をサポートするために東広島の「子供広場ヤッチャル」は日本語の授業を行っている。そこでボランティアが児童達に平仮名や学校の宿題や授業などを教え、平仮名を早く書き、読むことができるように色々な方法をとっている。

東広島に住んでいるインドネシアの小学生

東広島にいるインドネシアの子供の大半は西条に住んでいる。下のリストはインドネシアの児童の氏名・年齢・学校名及び学年のデータである。

	ニックネーム	歳	小学校	学年
1	■■■■■	8	■■■■■	二年生
2	■■■■■	9	■■■■■	三年生
3	■■■■■	9	■■■■■	三年生
4	■■■■■	9	■■■■■	三年生
5	■■■■■	9	■■■■■	三年生
6	■■■■■	9	■■■■■	三年生
7	■■■■■	6	■■■■■	一年生
8	■■■■■	9	■■■■■	三年生
9	■■■■■	7	■■■■■	一年生
10	■■■■■	10	■■■■■	四年生
11	■■■■■	10	■■■■■	四年生
12	■■■■■	8	■■■■■	三年生
13	■■■■■	7	■■■■■	一年生
14	■■■■■	8	■■■■■	二年生

リストによると、10人が■■■■■で勉強している。4人が■■■■■で勉強している。1年生は3人で、■■■■■は■■■■■で、■■■■■は■■■■■在学し、外国人児童として彼らだけの特別クラスで日本語指導を受けている。

学校で行う特別な日本語指導

文部科学省による公立の小・中・高等学校等における日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査によれば、平成20年度に日本語指導が必要な児童生徒は28,575人おり、小学生は18,365人いる。彼らが在籍する小学校は全国で3,891校である。

広島県では日本語指導が必要な外国人児童は300人いるようだ。母語別で見るとポルトガル語を母語とする者が最も多く、全体の3割を占めている。また、中国語・フィリピン語・スペイン語・インドネシア語の4言語であり、全体の7割以上を占めている。

寺西小学校と三ツ城小学校では日本語が分からない生徒のために特別クラスを設け、日本語指導を行っている。学校教育の一環として、児童1人1人の実態に応じて行う日本語指導は特別の教育課程を編成・実施する趣旨に沿うものとする。外国人

児童は、他の児童とともに学校生活を送るため、日本語で各教科の授業に参加できるよう日本語指導を受ける。

生徒は合計で320時間程度の日本語指導を受ける。それは1日当たりの授業時間というと、2時間程度である。教師は1人の児童につき約1人つく。まず、平仮名と片仮名が読めるように教え、文字を読むことができるようになれば、言葉や文法も教える。

例として、 の1年生である は毎日1時間、日本語クラスに参加することになっている。授業の流れとしては、最初は文字の発音練習をする。先生が「あ」と言ったら、2人はその発音を繰り返す。その後、読み書きの練習をし、文法の練習を行う。

東広島子供広場ヤッチャル

東広島では外国人児童を支援するために「子供広場ヤッチャル」という活動を4年前から東広島市民文化センターでボランティア活動を行っている。そこでは、日本人や外国人のボランティアの人々が外国人児童のため無料の日本語クラスを行っている。また、日本語の勉強だけではなく宿題も教えている。

「子供広場ヤッチャル」はサンスクエアビルの2階で1週間に2回、火曜日と木曜日に行われている。時間帯は、火曜日は4時半から6時、土曜日は午前10時から11時半までである。また、夏休みには特別なクラスを設け、1週間に3回、月・水・金曜日に行われる。

最近の「子供広場ヤッチャル」の生徒は21人おり、そのうち18人はインドネシア人である。他には中国人・フィリピン人・インド人が1人ずつ参加している。

「子供広場ヤッチャル」には勉強に必要な本や教材も用意しており、練習をする時や参考書が必要な時に使うことができる。日本語指導が必要な外国人児童に対してとても環境が整っている場所である。

「子供広場ヤッチャル」の先生方

先生は日本人だけではなく外国人もおり、日本語が分かるならば、ボランティア活動に参加することが出来、留学生や日本人の学生もボランティアとして参加することができる。

ボランティアは、主婦の方や広島大学の学生、留学生である。毎週全員が参加するわけではない。普通は5人か6人で教えている。ボランティアは子供達に日本語を教えたり、宿題をする子の手伝いをしたりしている。

子供広場ヤッチャルで勉強するインドネシアの子供

東広島にいるインドネシア児童の大半は西条に住んでいるため、寺西小学校と三つ城小学校で勉強をする。学校では日本語指導を受けて、子供広場ヤッチャルの日本語クラスも参加している。火曜日の授業が終ると、4時半にサンスクエアの日本語クラスに通っている。夏休みになると午後5時から6時まで、1週間に3回月・水・金曜日にサンスクエアに通い勉強することになる。

小学校に通っているインドネシア生徒達は全員子供広場ヤッチャルの日本語クラスに参加している。下の表は子供広場ヤッチャルのインドネシア生徒である。

平仮名を勉強する活動

日本語の勉強はまず文字を読み書きすることである。日本語の文字には平仮名と片仮名と漢字の3つがある。初級者が日本語を勉強するならば、まず平仮名と片仮名を勉強しなければならない。

1. 発音を習うこと

インドネシア語は26文字ある。その中で母音が5つあり、子音が21である。インドネシア文字の母音は発音が日本語の母音と同じである。「あ」の発音は「a」と同じ、「い」の発音は「i」と同じ、「う」の発音は「u」と同じ、「え」の発音は「e」と同じ「お」の発音は「o」と同じである。

子音の発音は母音をつけて読む。「B, C, D, G, J, P, T, V, W, Y」は「e」をつけて「Be, De, Ge, Je, Pe, Te, Ve, We, Ye」と読む。「F, L, M, N, R, S, X」は「ef, el, em, en, er, es, eks」と読む。「H, K, 」は「Ha, Ka」と読む。「X, Z」は「Eks, Zet」と読む。

文字	発音	文字	発音	文字	発音	文字	発音
A	A	H	Ha	O	O	V	Ve
B	Be	I	I	P	Pe	W	We
C	Ce	J	Je	Q	Ki	X	Eks
D	De	K	Ka	R	R	Y	Ye
E	E	L	El	S	Es	Z	Zet
F	Ef	M	Em	T	Te		
G	Ge	N	En	U	u		

平仮名の紹介

母音

あ	い	う	え	お
---	---	---	---	---

や	ゆ	よ
---	---	---

子音

か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や		ゆ		よ
ら	り	る	れ	ろ
わ				を
				ん

きや	きゆ	きよ
しや	しゆ	しよ
ちや	ちゆ	ちよ
にや	にゆ	によ
ひや	ひゆ	ひよ
みや	みゆ	みよ
りや	りゆ	りよ

が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ		づ	で	ど
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ

ぎや	ぎゆ	ぎよ
じや	じゆ	じよ
びや	びゆ	びよ
ぴや	ぴゆ	ぴよ

母音

A	I	u	E	O
---	---	---	---	---

Ma	Mi	mu	Me	Mo
Ya		yu		Yo
Ra	Ri	ru	Re	Ro
Wa				Wo
				N

子音

Ka	Ki	ku	Ke	Ko
Sa	Shi	su	Se	So
Ta	Chi	tsu	Te	To
Na	Ni	nu	Ne	No
Ha	Hi	fu	He	Ho

Ya	Yu	Yu
----	----	----

Kya	Kyu	Kyo
Sha	Shu	Sho
Cha	Chu	Cho
Nya	Nyu	Nyo
Hya	Hyu	Hyo

Mya	My	Myo
Rya	Ryu	Ryo

Ga	Gi	gu	Ge	Go
Za	Ji	zu	Ze	Zo
Da	Ji	dzu	De	Do
Ba	Bi	bu	Be	Bo
Pa	Pi	pu	Pe	Po

gya	Gyu	Gyo
ja	Ju	Jo
Bya	Byu	Byo
Pya	Pyu	Pyo

仮名の読み方は以上のように読むことができる。子供が平仮名の発音を習うときにもこのように習う。

平仮名の特徴

上記の表はインドネシア語と日本語の清音子音と母音を分類し、それに従い平仮名文字を縦横の表に並べたものである。伝統的には縦書き文の要領で、縦に母音の変化、横に子音の変化を表す。横一例は母音がそろっており、これらをあ段、い段、う段、え段、お段といい、縦一行は子音がそろっており、これらをあ行、か行、さ行、た行、な、は行、ま行、や行、ら行、わ行という。また五十音図には通常「ん」は含まれない。

日本語では単純母音が五つしかないこと、子音それぞれと組み合わせがほぼ完全対応であることが、平仮名理解する手段として、五十音をわかりやすく手軽なものにしている。

平仮名の数量は多いが、文字を46だけ覚えると、残りの文字ができる。か行、さ行、た行、は行濁点を付けることが行、ざ行、だ行、ば行になる。困みにこれらは半濁点を付けると、ぱ行になる。

「子供広場ヤッチャル」の生徒達が平仮名の発音を習うときも上記の方法で覚えて、勉強する。発音練習の後は書き勉強を始める。

2. 平仮名の書く練習

はじめて、平仮名を学ぶ子供はまず、鉛筆を思い通りに動かすための「運筆練習」をする。平仮名をきれいに書けるようになるためには、思い通りに手首を動かす力や筆圧などの運筆力を身につけておく必要があるからである。特に外国人の子供達は新しい文字の形を書くための手指の骨の発達がまだ十分ではないので、いきなり文字を書き始めるのではなく、ウォーミングアップの運動をしっかりしておくことが大切である。

1. 曲線的を学ぶこと

「子供広場ヤッチャル」では平仮名書き順を勉強する前に曲線を学ぶ段階が必要となる。インドネシアの文字はローマ字であり、書き方が違うので、文字を書く練習をする前に曲線の練習のが必要である。習うものは以下通りである。

—	/	し	く	ふ	へ
こ	つ	し	ん	り	の

「子供広場ヤッチャル」で勉強する子供は学校でも曲線を学んでおり、学校で繰り返し練習している。練習方法はワークシートでの書き練習で、上達したら文字を書く練習をする。曲線の勉強は大体1回か2回程度行う。子供に曲線の課題も出す。

2. 正しい字形を上からなぞる「なぞり書き」

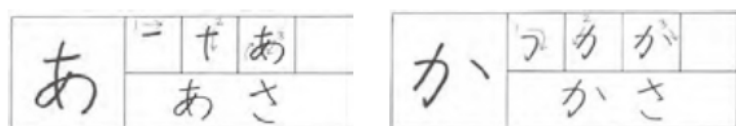
平仮名の曲線に慣れたら、次の段階は文字をなぞり書くことである。ひとつひとつの文字の線の曲がり方や交わり方などの仕組みを学ぶ。また、この時期に大切なのは、自分のよく知っていることばをひらがなで書いてみるなど、楽しく文字を書く体験をすることである。以下のようになぞり書きの練習をする。



3. 正しく書くための「写し書き・書き順」

なぞり書きの次は、お手本となる字を見ながらの「うつし書き」を学ぶ。目で字形をとらえ、必要な線を組み合わせて、字を書く力を身につけていく。また、字を書けるよ

うになってきたら、正しい書き順で書くことを促し、きれいな字を書く力を伸ばす。



文字を覚えるためには何回も繰り返すことが大切である。普通はワークシートを使って練習する。最初はワークシートで練習をし、先生に評価をもらって、良かったら次の文字を練習することができる。「あ」から「ん」までの練習が終わったら読み練習をはじめる。

手書きの文字が上達するために、書き順を練習する際先生方が手書きの例を挙げて、こどもがその例のようにその字を書く。この方法で、子供の字がもっときれいになる。

3. 読み練習

平仮名の読み練習をする時にはまず単語を音節に分け、平仮名の文字の音と対応させて、読むのが難しい平仮名を確認する。そのような方法で平仮名の読み練習をする。

1. 単語を音節分けること

「ひよこ」は「ヒ・ヨ・コ」という3つの音節からなり、1音節に1文字ずつ対応するため「ひ・よ・こ」という3文字で表すことができる。

原則として、ひらがな1文字に1音節が対応するという日本語の特徴のおかげで、子供はひらがなを学びやすい。

まず、聞いた言葉を音節に分けて、聞き取り、一つの音に一つの文字を当てはめる。という理解が、ひらがな文字の習得の基礎として重要である。

楽しんで言葉を覚えるために、「あ」で始まる言葉を集めるという頭音集めがある。この遊びは例えば「あ」という音を表している単語を書き出すものだ。「あり」の「あ」も「あひる」の「あ」も、ともに「あ」と書くのだということ学ぶことに繋がる。

単語の勉強を楽しくするため、しりとりも使える。単語の末尾の音を聞き取り、その音が頭につく言葉を探すゲームである。音節分解が十分にできていないと遊べないので、頭音集めよりも高度になる。

2. 平仮名の文字の音と形対応にさせる

ひらがなの1字1字の形と音を対応させて覚えることができるようになると、初めは形に特徴のある平仮名から覚え始める傾向がある。

たとえば「ふ」や「ほ」など複雑な形でも特徴のある字は、比較的早く読みを覚えることができる。一方で、「く」と「へ」、「さ」と「ち」など、単純に見えても似ている字の識別は難しいのが、平仮名を覚え始める時期の子供の特徴である。

体をつかって文字をつくる遊びは、ひらがなの形をイメージするのを助けてくれるおすすめの遊びである。体の大きな動きとひらがなを結びつけることで文字の形のイメージが定着しやすくなる。

3. 読むのが難しい平仮名の確認

「拾い読み」ができるようになったら、今度は「ん」「ば（濁音）」「ぱ（半濁音）」や小さい「っ・ゃ・ゅ・ょのつく音（拗音）」など、特殊な読みのひらがな表記に挑戦する。ひらがなの読みの完成を目指す。

空欄に入る平仮名を答えてもらう問題で理解を図るものがある。例として、パンダの絵を見る時「ば」「ん」「だ」の3音を認識しているかの確認である。「ぱん」「だ」と2音として認識していると答えに詰まる。“ん”は文字としては知っている外国人子供でも、一文字として認識し表記するのはなかなか難しいものである。

勉強の教材

「子供広場ヤッチャル」では勉強の活動を支援するために小中高むけの本も用意する。国語、算数、地理などの教科書もあり、勉強や練習の時に使う。そして、平仮名を勉強する生徒に色んな絵本も用意してある。勉強が終わったら、カードゲームをして遊ぶこともある。

おわりに

日本に住んでいる外国の児童は日本の義務教育を受けなければならない。学校の授業や友達との生活を快適にする日本語が必要である。そのために学校が外国の児童達のために特別な日本語の指導を行う。東広島に住んでいる外国の児童達は特別な指導を受ける。

東広島では外国の児童を支援するために、「子供広場ヤッチャル」という日本語クラスを開いた。その活動はボランティアとして、日本語の学習や学校の宿題、その他様々な活動を支援している。

東広島に住んでいるインドネシアの14人の児童達は小学校に通っており、入学時には日本語ができないため、特別な日本語指導を受けた。彼らは初めて日本語を学習するので、日本語の文字や宿題も進まない。そうした児童は「子供広場ヤッチャル」のクラスに参加している。

日本語の学習の中で初級レベルは、日本の文字を読み書くことができるレベルのことをいう。日本語とインドネシア語は文字が違うので、文字の学習が重要である。日本語

の文字には3種あるが、最初に学習するのは平仮名である。平仮名は動詞、形容詞などを書くのに使われている。漢字と平仮名は文章を読み書きする上で頻出する。

簡単に平仮名を学習するために、「子供広場ヤッチャル」では分かり易い方法で学習する。平仮名の学習は読み書きがある。書くことでは、まず鉛筆を思い通りに動かすために「運筆練習」を行う。そして、正しい字形を上からなぞる「なぞり書き」、正しく書くための「写し書き・書き順」の練習をする。

平仮名を読む学習には単語を音節分けること、つまり平仮名の文字と音を対応させ、読むのが難しい平仮名の確認をする。それ以外は本も教材も使う。その方法で外国の児童は平仮名の勉強が易しくなった。

参考

<http://ibrahimrmdhn.blogspot.jp/2012/05/pelafalan-huruf.html>

<http://happyililac.net/hiraganahyo-kakizyun.html>

<http://shotopenji.com/youji-syougakusei/>